

踏んで発電できる床、ブラジルの「スマートシティ」に生かす

藤沢市の企業が JICA の中小企業支援で海外へ

国際協力機構(JICA)は2月1日、「中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～」において、株式会社音力発電(神奈川県藤沢市、速水浩平代表取締役)提案の「ブラジル連邦共和国エネルギーハーベスティング技術に関する普及・実証事業」(ブラジル)の実施にかかる契約を行いました。

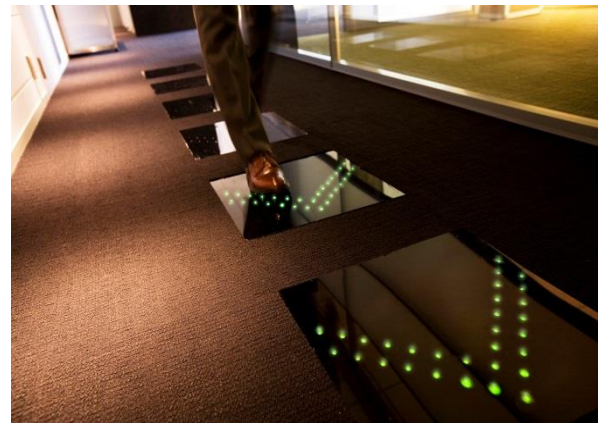
(株)音力発電(以下同社)の開発した「発電床」は、製品の中に発電機が内蔵されており、床を踏んだエネルギーで、誘導灯の点灯やセンサーなどが稼働する「エネルギーハーベスティング技術」*を活用する製品であり、動力に化石燃料などを使用しない環境に優しい機能で、設置に大がかりな工事を必要としない製品です。同社では、JICA の中小企業海外展開支援事業を通して、「発電床」をブラジルのクリチバ市の自転車道路に設置し、製品の機能と効果を検証することになりました。

ブラジル南部に所在するクリチバ市は、「人間が都市における生活機能の中心である」というコンセプトの下、「安心・安全の向上」「環境配慮型の技術の推進」ならびに「スマートシティ構想」による環境都市を目指し、「公共照明整備計画」を制定しています。

* 日常生活のあらゆる場で発生する、利用されていないエネルギーを小規模な電力エネルギーとして有効利用する技術



① ブラジル国クリチバ市「発電床」仮設置場(屋外)



② 「V字型発電®」発電床(オフィスフロア用誘導灯)

同市では、走行する自転車の重量を動力として点灯し、同時に無線信号も送信する「発電床」の導入により、交差点での注意喚起や自転車通行量の測定を行うことができ、同市の自転車道の安心・安全の実現および、化石燃料を使用しない移動手段である自転車の利用促進を図っています。

また、クリチバ市での製品導入を契機として、将来的に同社では、自社製品の海外ビジネス展開を目指しています。

* 「発電床」は2017年2月25日までJICA地球ひろば(東京・千代田区)で特別展示されています。なお、JICA横浜国際センター(横浜市・中区)1階では常設展示しております。

(地球ひろば特別展示) <https://www.jica.go.jp/hiroba/information/exhibition/monthly/index.html>

(JICA横浜国際センターURL) <https://www.jica.go.jp/yokohama/index.html>

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～普及・実証事業～」として実施されます。普及・実証事業は、中小企業等からの提案に基づき、途上国の開発課題の解決に有効に活用できるポテンシャルを有する製品・技術等の現地適合性を高めるための実証活動の実施および普及方法を検討することを目的とした事業です。

参考:

JICA 中小企業海外展開支援事業について

URL: https://www.jica.go.jp/sme_support/index.html

【本件に関する問い合わせ先】

国際協力機構 横浜国際センター（JICA 横浜）
中小企業海外展開支援事業担当（平野、広瀬、増田、山田）
TEL 045-663-3252 e-mail: yictad@jica.go.jp